



鼠多門入館のご案内

- 開館時間 / AM9:00~PM4:30 (入館無料)
- 休館日 / 年中無休

金沢城公園(鼠多門口) 交通のご案内

- バス / 南町下車尾山神社経由徒歩5分
- タクシー / 金沢駅から約10分
- 自動車 / 北陸自動車道「金沢西インター」から約30分
- 北陸自動車道「金沢東インター」から約30分
- 北陸自動車道「金沢森本インター」から約20分



お問い合わせ

石川県金沢市 兼六園管理事務所

〒920-0937 金沢市丸の内1番1号 TEL.076-234-3800 FAX.076-234-5292

<http://pref.ishikawa.jp/siro-niwa>

鼠多門は、金沢城の西側の郭である玉泉院丸に位置し、木橋(鼠多門橋)により接続される金谷丸(現在の尾山神社境内)からの出入口として機能していました。石垣の間に設けられた大扉の上に櫓が作られた櫓門形式の城門で、城内の他の門と同じく、屋根は木型を鉛板で覆う鉛瓦、外壁は白漆喰塗り、腰壁には海鼠壁が用いられますが、海鼠壁の目地が黒漆喰で仕上げられることが、城内の他の門には見られない特徴です。

創建年代は明らかになっていませんが、江戸時代前期には既に存在していたことが絵図等から判明しており、城内の多くの建物が失われた宝暦9年(1759)の大火でも焼失を免れ、修理等を経たずから明治期まで存在していました。

鼠多門橋は、玉泉院丸と金谷丸を隔てる水堀に架かる城内最大規模の木橋で、幾度かの架け替えを経て明治期まで存在していました。

明治10年(1877)に老朽化のため橋は撤去され、明治17年(1884)には鼠多門も火災により焼失しました。その後、周囲の水堀も埋め立てられ往時の面影は失われていました。

1583 [天正11年]	前田利家、金沢城主となる
1623 [元和9年]	二代藩主前田利長正室の玉泉院が逝去し、屋敷を撤去(この後、一帯を玉泉院丸と呼称)
1631 [寛永8年]	二の丸御殿を造営
1634 [寛永11年]	玉泉院丸に庭園造営
1759 [宝暦9年]	大火により城内の大半が焼失、鼠多門は残る
1765 [明和2年]	鼠多門橋を架け替え
1812 [文化9年]	鼠多門長屋を修理
1816 [文化13年]	鼠多門を「玉泉院様丸御門」と改称
1821 [文政4年]	兵士土蔵を新築
1821 [文政4年]	鹿藩置県。金沢城が軍の所管になる
1873 [明治6年]	金谷丸跡に尾山神社が創建される
1877 [明治10年]	鼠多門橋、老朽化により撤去
1881 [明治14年]	鼠多門跡失
1881 [明治14年]	二の丸御殿が焼失
1932 [昭和7年]	鼠多門前の堀が埋め立てられ道路になる
1949 [昭和24年]	金沢大学開学
2001 [平成13年]	金沢城公園開園
2008 [平成20年]	金沢城跡が国史跡に指定される
2015 [平成27年]	金沢城公園第三期整備計画に鼠多門・橋の復元整備を位置づけ、金沢城鼠多門等復元整備専門委員会を設置
2020 [令和2年]	7月 鼠多門、鼠多門橋完成

●整備の概要

平成26年(2014)から実施した埋蔵文化財調査や絵図・文献調査の結果に基づき、鼠多門は史実に沿った木造による復元、鼠多門橋は現在の安全基準等を満たす鋼構造とし、城郭景観との調和を図るため鋼材を木材で覆う仕上げとしました。橋下部は遺構を保護するため杭基礎とせず、基礎コンクリート盤と橋脚・鋼床版を一体的に剛結する構造とすることで耐震性を確保しています。門は平成30年(2018)6月に起工、橋は同年10月に起工し、令和2年(2020)7月に完成しました。

整備にあたっては、発掘調査で確認された江戸期の遺構に保護層となる盛土を行い、傷みの見られた石材については修理を行い再利用するなど、文化財の確実な保存を行っています。

●埋蔵文化財調査の概要

埋蔵文化財調査では、鼠多門の外郭線や門の礎石位置を特定できたほか、通路部の側壁石垣の下部が遺存していたことなど、明治17年(1884)に焼失した鼠多門に係る各種の遺構を検出し、規模、構造について確認しました。

また、鼠多門の特徴である黒漆喰仕上げの「海鼠漆喰(なまこじっくい)」が出土したことから、鼠多門の海鼠壁は黒みがかかった鼠色であったことが明らかになりました。

鼠多門橋の調査では、明治10年(1877)に撤去された橋脚遺構を検出しました。それ以前の橋脚遺構も検出できたことから、数度にわたる架け替えが行われたことを確認しました。

■調査期間：平成26年9月～平成30年8月

■調査面積：2,300㎡



明治初期の鼠多門・鼠多門橋(背後は二の丸御殿)
(「金沢城門等写真」金沢市立玉川図書館蔵)



黒漆喰仕上げの「海鼠漆喰(なまこじっくい)」



側壁石垣の検出状況(北)



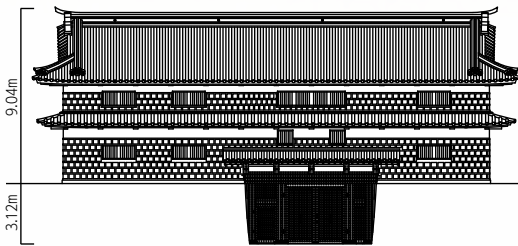
中央大柱礎石



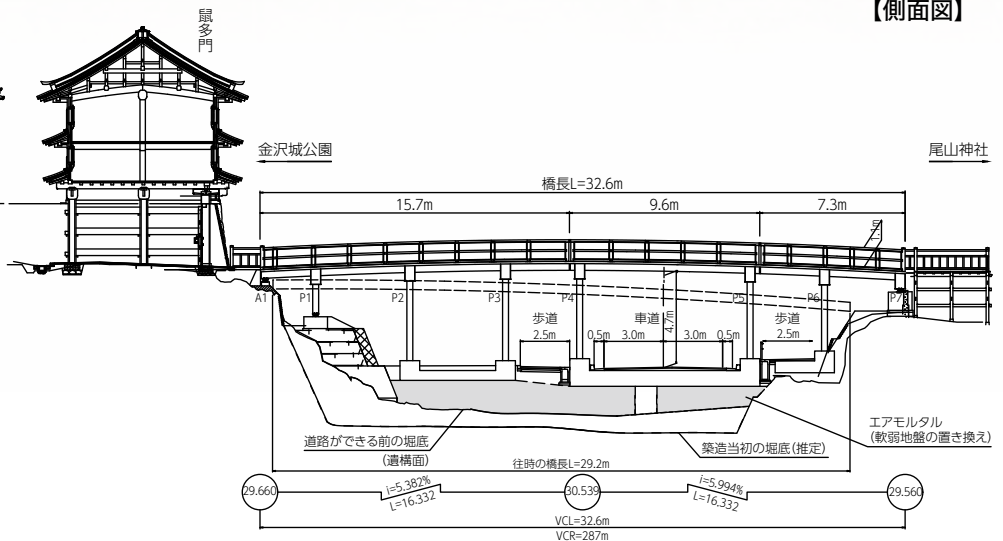
側壁石垣の検出状況(南)

●建造物・工作物概要

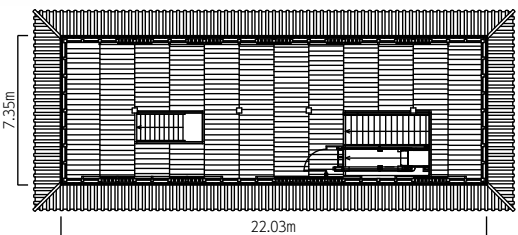
【鼠多門西立面図】



【側面図】



【鼠多門2階平面図】



区分	鼠多門	鼠多門橋
構造	檜門、入母屋造 木造二階建て、門部分地階	A1~P4：4径間張出し式鋼床版ラーメン構造 P4~P5：鋼床版ラーメン構造 P5~P7：2径間張出し式鋼床版ラーメン構造
規模	桁行22.03m、梁間7.35m、建築面積198.62㎡、床面積323.84㎡	橋長32.6m、全幅5.5m、有効幅員4.3m
仕上げ、材料等	檜部外壁漆喰塗り、鉛瓦葺(本瓦葺型鉛板葺) 使用木材(全体の約75%が県産材) 檜(門の柱・梁・扉等)、松(檼の梁)、 能登ヒバ(檼の側柱・壁板・床板等)、杉(化粧屋根裏板)	木製高欄、木床板、鋼材は木板により化粧 使用木材 能登ヒバ

●規模・構造・仕上げ等